



verve

13

あなたと栄仁会をむすぶ情報誌
Jan.2015



特集



統合失調症の方が地域で暮らすために必要なサポートとは

- 統合失調症と共に生きる方に行き届いた在宅ケアを
- 連携し広がる、栄仁会の在宅支援ネットワーク
- 栄仁会ドキュメントTHE舞台裏



医療法人栄仁会 宇治おうばく病院
在宅地域支援部医長 赤澤 祐貴
(京都府出身・みずがめ座)

2001年より、京都府立医科大学に勤務。洛和会音羽病院の精神科の勤務を経て、2004年から宇治あうばく病院へ。

分でがんばれる」と言う方が意外と多いのです。そういう場合、強制はしません。強制すれば来所できるというものでもありますし、一度は自分なりにやつてもらいます。

赤澤 こういったサービスは、ご本人が地域での生きづらさを感じ、サポートの必要性を自覚してから活用してもらうのが、うまくいく可能性が高まります。それは退院後のケア全般に言えそうです。

沢井 ご本人が前向きに捉えれば、その時

栄仁会が広げる、地域生活支援の輪

統合失調症と 共に生きる方に 行き届いた在宅ケアを

統合失調症の患者さんが地域で暮らすためには、どんなサポートが必要となるのでしょうか。



医療法人栄仁会 宇治おうばく病院
生活機能回復部医長 沢井 真樹
(京都府出身・おとめ座)

1998年、京都府立医科大学を卒業。宇治おうばく病院に3年間勤務した後、滋賀県立精神医療センターを経て、宇治おうばく病院に復帰。

統合失調症は 軽症化している？

回復段階やニーズに合ったサポートを

沢井 入院治療と2～4週間に1度病院に来る外来治療では、治療構造に落差があります。

沢井 最近統合失調症をはじめとした精神疾患は軽症化していると言われています。当院でも、以前に比べて短期間で退院する方が多い印象があります。しかも最近の治療薬はパーキンソン症状や過鎮静がないので、スッキリした表情で帰って行かれます。

赤澤 入院治療と外来治療の落差を埋めるものとして、通所系のサービスにデイケアがあります。

沢井 当院では2014年5月に今まであつた二つのデイケアを、就労支援型デイケ

ます。しかし退院後の生活を見ていると、最近でも実際に就労できている方は少なく、結局はひきこもりになられる方が意外に多い。

沢井 入院中の生活は、食事や薬が決まった時間に出てくるし、消灯時間も決まっているなど、ある意味すごく構造化されているため、自発性の低下などの障がいの面が見えにくい。だから、急性期の幻聴などの症状さえなくなつてくると「もう大丈夫なんじゃないか」となりやすいんです。

赤澤 地域では自由であるかわりに、朝起きてから寝るまで、すべてのことを自分で主体的に考え、判断し、組み立てていく必要があります。病棟生活は言われる通りに受け身で過ごすので大丈夫ですが、いざ退院して生活するとなると、睡眠・覚醒のリズムさえうまくいかなかつたりして、食事や服薬もおろそかになつていく…。そもそも入院の前には辛い症状があつた、病気であつたということさえ忘れててしまう方もおられます。

赤澤 グループホーム「ぴあ・みむろど」の
あは1年前後の利用を日安に入所して生
活訓練を行う、通過型の施設です。退院し
てすぐ地域に帰ることが難しいケースが対
象になります。

かなど、些細な生活面での課題が出てきます。そういう面の評価や訓練が密に必要なケースは、私もグループホームを考えます。

赤澤 再入院を繰り返さないために、医療面だけでなく、生活面の評価や支援は大事ですね。

の病状に合わせたご提案もスムーズです。た
とえば朝から午後3時までは「デイケア」「み
らい」で集団活動に入り、帰りには少人数
制でのんびりできる「いろは」に寄るなどで
すね。

**病院から地域へ
広がる生活へのサポート**

情報交換しているので、通所ができれば通所、訪問が必要なら訪問と、患者さんの変化に合わせて対応できるのも、いいところでですね。

施設として、「訪問型生活訓練いろは」があります。

沢井 しかし、通所もいや、入所もいや、それどころか病院に行くのも気が進まない… というケースもあります。

「ゆるり」があります。医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、心理士、薬剤師がチームで訪問医療に取り組んでいます。

分でがんばれる」と言う方が意外と多いのです。そういう場合、強制はしません。強制すれば来所できるというものでもあります。しかし、一度は自分なりにやつもらいます。

赤澤 「ゆるりー」の対象となる、治療に抵抗がある患者さんに対して「お薬飲めてますか」「夜寝れますか」と声をかけても関係

特集

治療の主人公は、やはり患者さん自身なんですね



精神科に通っている方の中には何となく、生きていく自信みたいなものを見失つておられる方が時々おられます。そういった方に、診察室だけで自信を取り戻してもらうのは困難です。やはり、自尊心を取り戻すには、年齢相応の社会適応の場が必要になってしまいます。

赤澤 患者さん自身に、今後のことをお聞きしていく中、「働きたい」とおっしゃる方が多いですね。
沢井 いろいろな考えがありますが、やはり治療や精神科リハビリーションの主人は患者さん自身です。患者さんの「働きたい」という気持ちは、治療がどんな段階であっても尊重し、一緒に「そのためにはどうやっていくか」を考えていきたいところです。

の患者さんにとっては、まずは規則正しい生活をする、大勢の人の中で過ごすといったことが大きな壁となりがちです。「きらり」は宇治おうばく病院内のデイケアですが、大きな負荷がかかることなく、まずは初歩段階の準備を進めることができます。

沢井 「ワークネット」で実習にトライしたものの、なぜか朝起きられない、何のためにそこまでして働きたいか分からなくなってきたといったことが出てきて「きらり」での就労準備段階に戻る方もおられます。

赤澤 サービス提供開始時の意欲や能力に合わせて、就労サポートを柔軟な形で提供しています。

働きたいという気持ちを大切にし 就労支援はアフターフォローまで

患者さんの希望を聞き、
共に実現していく



まずは希望をお聞きし、
そこから共に考えます

赤澤 「ワークネット」で実際の企業に行く前に、こういった就労の疑似体験ができることは、大きな意味があります。共通の目標を達成するために、意見が飛び交い「きらり」内での仲間意識が高まつたりもしていますね。

沢井 「ワークネット」の場合は、ジョブコートの存在が特徴的です。職場体験を含めた就労までの道のりを支えるのはもちろん、就労スタート後も積極的にサポートしている。

赤澤 トラブルやストレスが発生した場合に雇用主との間を取り持つ、接し方について雇用主に理解を促すなど、途切れることなく支援していますね。

沢井 一般的に統合失調症の方は、眞面目ではあるけれど、臨機応変な対応がしつらいいという傾向があります。また特性は人によっても違いますから、苦手分野もそれぞれあるでしょう。できるだけ得意な分野を見極めた上で、それを活かせるよう、職場に働きかけるのもジョブコーチの役目です。

赤澤 統合失調症という病気を抱えての就労が、簡単でないのは確かです。しかし基礎から企業実習まできめ細かいプロセスを踏むことで、「ワークネット」を利用される方の半数以上が就労されています。統合失調症の方の就労サポートとしてはかなり高い就職率を誇っており、「働きたい」という統合失調症の方々の希望に応えることができつかりますね。

沢井 そして、就労ということを通じて成長し、患者さんの顔つきが目に見えて変わっていくのを見ると、うれしく感じますね。「ワークネット」ができる、本当に良かつたと思います。

赤澤 地域とのつながりでいうと、患者さんを栄仁会だけで支えることはできないという現実があります。地域の力は不可欠です。当院のスタッフが積極的に地域の取り組みに参加することで、地域と密に

障がないがあつてもなくとも
人間にとつて大事なこと

沢井 100年以上前にフロイトが言った言葉なのですが、「人間にとつて大事なのは、愛することと働くこと」(love and work)と

赤澤 我々自身もどうやって心のバランスを取っているのかとすると、すべき仕事があるということが大きいのかもしれませんね。

赤澤 栄仁会の就労サポートとして大きな役割を担っているのが、就労移行支援事業「ワークネットきょう」とです。企業に行つて、実際の職場で実習できるのが特徴ですね。リアルな職場にはたくさんの規則があり、ミスをすると職場の人へ厳しく注意をされることもあります。そこでジョブコーチといつた栄仁会スタッフが、職場との間を取り持つ役目を果たします。

沢井 同じく、就労サポートとして、就労支援型のデイケア「リカバリーセンターきらり」があります。就労準備をこれからスタートできるのが「きらり」の特徴です。統合失調症

会の今後を担っていく新しいメンバーにも、それができる方がふさわしいでしょうね。赤澤 向上心を持ち続ける人、貪欲に吸収できる人こそが、患者さんのためになることを、どんどん見つけられる。栄仁会のスタッフ全員、モチベーションを高く保ちたいですね。

赤澤 会の今後を担っていく新しいメンバーにも、それができる方がふさわしいでしょうね。赤澤 向上心を持ち続ける人、貪欲に吸収できる人こそが、患者さんのためになることを、どんどん見つけられる。栄仁会のスタッフ全員、モチベーションを高く保ちたいですね。

気持ちを優先しながら
就労支援に取り組む

赤澤 栄仁会の就労サポートとして大きな役割を担っているのが、就労移行支援事業「ワークネットきょう」とです。企業に行つて、実際の職場で実習できるのが特徴ですね。リアルな職場にはたくさんの規則があり、ミスをすると職場の人へ厳しく注意をされることもあります。そこでジョブコーチといつた栄仁会スタッフが、職場との間を取り持つ役目を果たします。

沢井 同じく、就労サポートとして、就労支援型のデイケア「リカバリーセンターきらり」があります。就労準備をこれからスタートできるのが「きらり」の特徴です。統合失調症

会の今後を担つていく新しいメンバーにも、それができる方がふさわしいでしょうね。赤澤 向上心を持ち続ける人、貪欲に吸収できる人こそが、患者さんのためになることを、どんどん見つけられる。栄仁会のスタッフ全員、モチベーションを高く保ちたいですね。

赤澤 会の今後を担つていく新しいメンバーにも、それができる方がふさわしいでしょうね。赤澤 向上心を持ち続ける人、貪欲に吸収できる人こそが、患者さんのためになることを、どんどん見つけられる。栄仁会のスタッフ全員、モチベーションを高く保ちたいですね。

赤澤 「働く」といつても、「一般就労が唯一の『ゴール』ではない」ということです。それぞれの社会参加、社会貢献の形があるはずです。障害があるとしても、人は一緒にいる仲間がほしい、人の役に立ちたいという気持ちを持っている。そこを大事にして、それぞれの人らしいあり方を共に考えていくのです。

赤澤 地域とのつながりでいうと、患者さんを栄仁会だけで支えることはできないという現実があります。地域の力は不可欠です。当院のスタッフが積極的に地域の取り組みに参加することで、地域と密に

連携し広がる、栄仁会の在宅支援ネットワーク

訪問型、入所型、通所型の施設を中心に、それぞれの強みを活かしたケアを行い、地域生活を支援するネットワークで利用者の方々をサポートします。

地 域

栄仁会グループ

通所型

就労移行支援
ワーカネットきょうと

就労準備型デイケア
リカバリーセンター
きらり

生活支援・余暇
支援型デイケア
サポートセンター みらい

訪問型生活訓練
いろは

入所型

グループホーム
ぴあ・みむろど・のあ

栄仁会のネットワークで相互に連携、
ケースによって柔軟にサポート

訪問型

訪問医療 ゆるり
(アウトリーチ)

訪問看護
ステーション
おうばく

訪問型生活訓練
いろは

相談支援
事業所
おうばく

外来受診



宇治おうばく病院



退院

入院

ご自宅の地域

かかりつけ
医

保健所

支援
センター

ハロー
ワーク

社会福祉
協議会

作業所

市町村

民生委員

サロン

連携

連携

ご自宅

連携

相談・支援

あらゆる方に支援が行き届くよう、
地域の機関とも積極的に連携しています

宇治おうばく病院を退院後に地域での生活を再開される方はもちろん、ご自宅の近隣にある機関へのご相談などをきっかけに、在宅支援がスタートするケースもあります。大きくは訪問、入所、通所に大別されますが、病状、生活状況、ご希望などによって、柔軟に対応。栄仁会グループのネットワークで各種支援体制をカバーした上で、グループ外の外部資源とも積極的に連携をしています。

専門のスタッフ、チーム、施設が連携サポート

栄仁会は、多彩な取り組みを通じて、統合失調症の方の在宅ケアにあたっています。それぞれの特徴や目標などについてご紹介します。

訪問型生活訓練「いろは」

できることを増やすのも、サポートです

入院や入所を経てご自宅に戻ると、病院とは環境も設備も違い、相談できる対象も限られます。そのため「お茶をわかす」といった小さなことから、買い物、調理、洗濯と、暮らしに必要なあらゆる支援をしています。ヘルパーに依頼されている方も多いのですが、常に来ているわけではありませんので、ちょっとしたことで困らないよう、ご自身でできることを少しずつ増やせるようにしています。最初はスタッフがご自宅に入ることに拒否感が強い方も少なくありません。入院時からお顔を合わせ、退院準備からお手伝いすれば、スムーズに受け入れていただけるように思います。何でも相談していただける存在となり、暮らしの中に楽しみを見つけられるようにご提案していくのが目標です。



訪問型生活訓練「いろは」
山崎 理恵（京都府出身・みずがめ座）



生活支援・余暇支援型デイケア「サポートセンターみらい」

悩みも相談できる場で、多彩な活動を

病気の性質上、1人でご自宅にいると、考えすぎて苦しくなる方も多いため、デイケアへの通所をおすすめしています。9時から15時までの6時間（ショートケアは3時間）、50名ほどが集まる、にぎやかな空間です。絵を描くなどのレクリエーション、お昼ごはんの準備、体や頭を使うプログラムなど、取り組み方はさまざま。人との接点を求めて来る方が多く、悩みにも共感しあえることもあります。おしゃべりが弾む様子も見られます。とはいっても参加者の多くがルール、マナー、気遣いを意識しにくく、人との関わりに苦手意識を持つ一面があるのも確かです。小さなトラブルが起きたときもスタッフがしっかり配慮して、患者さんの気持ちを大切にした上で、楽しい環境を維持するようにしています。



生活支援・余暇支援型デイケア
「サポートセンターみらい」看護係長 松村 一馬（大阪府出身・しし座）



訪問看護ステーションおうばく

作業療法士や 看護師が訪問ケア

ご自宅で「しんどい」「することがない」と苦しむ方は案外多いものです。そのため看護師は服薬の管理やバイタルチェックに加え、会話で気持ちを支えますし、作業療法士は具体的なご提案もします。たとえば誕生日の近いお孫さんへのプレゼントづくりをお手伝いするなど。手先を使いますし、会話が増え、しかも楽しめます。ちょっとした社会参加や人の役に立つ取り組みで、ストレスを減らしたいですね。

訪問看護ステーションおうばく 島津 佐智
作業療法士（奈良県出身・ふたご座）



訪問看護ステーションおうばく
アウトリーチチーム「ゆるり」

医療スタッフが チームを組み訪問

医療やサポートが必要な方に多職種のチームで支援を行っています。ただ病院からスタッフが来るというだけで、人によっては身構えてしまう。サポートが押し付けにならないよう、患者さんのペースを尊重して、訪問のタイミングも柔軟に設定しています。ご本人の気持ちに寄り添いつつ、まずは病状の安定をはかり、生活や就労の支援にもつなぐことで、生活が好転する可能性を高めていきたいと考えています。

訪問看護ステーションおうばく 久保 香栄
精神保健福祉士（京都府出身・いて座）



訪問看護ステーションおうばく
相談支援事業所おうばく

相談支援専門員が あらゆる窓口に

多彩な支援体制も、利用しやすいことが大前提。私たちは困りごとの内容にかかわらず、まずは何でも相談していただき、必要なサポートにつなぐ役割を担っています。大切なのは、どんなご相談でも、まずは受け止めること。また既存の支援の範疇におさまらない場合でも「できません」で終わらせず、何らかの解決方法を模索します。ご自宅での生活が安定するように、知恵をしぼって対応していきたいです。

訪問看護ステーションおうばく 入江 哲弘
精神保健福祉士（京都府出身・みずがめ座）



就労準備型デイケア「リカバリーセンターきらり」

働く力を伸ばせるように、初歩から支援

就労経験のない方、経験はあるけれど病気で退職した方を主な対象に、さまざまな就労準備プログラムをご用意。まずはご自宅から定期的に通うことから始める方、対人関係に慣れてきた方、あと1~2ヶ月で就職できそうな方など、段階に合わせて柔軟に支援しています。クイズ大会などで気軽に過ごすこともできますし、意見を交わし合うグループワークへの参加、ものづくりの課題に企画から仕上げまで取り組むなど、少しずつステップアップが可能。自分の課題を決め、まわりと話し合い、トライして達成し、課題を振り返るという、就労に欠かせない力を高めます。私の実感は「やったら、できる」。必ずできると信じて伸ばす方法を模索し、職場との出会いがかなう方向へとサポートしています。



就労準備型デイケア
「リカバリーセンターきらり」係長 作業療法士 市田 忍（和歌山県出身・かに座）



ワーカネットきょうと
職場実習やジョブコーチが就労の支えに

障がい者雇用の門戸は広がりつつある一方、利用者さんの個性や職業特性・環境が合わなかったり、人間関係などが原因で継続して働くなくなるケースもあります。当施設では利用者さんが「働き続ける」ために、作業をベースに挨拶や「報・連・相」といったコミュニケーションスキルを学び、グループワークで働く意識を深め、提携企業での職場体験実習を通して、調子が悪くなった際の対処法を学んだり職業選択の幅を広げるなど、トータルでサポートしています。こちらの特徴もある、ジョブコーチによる就職後の職場での支援などが功を奏し、多くの方が1年ほどで就職し、継続して働き続けています。今後も紹介できる職場や実習先を開拓しつつ、サポートを続けていきます。



ワーカネットきょうと
管理者・サービス管理責任者 精神保健福祉士 金森 翔（京都府出身・やぎ座）

連携医療機関紹介 ⑥ おおいしクリニック



患者を支える手厚い在宅ケアに注力

京都にて精神疾患患者への在宅ケアを行なう「ACT-K」に参加し、2010年にはおおいしクリニックを開院。統合失調症の方をはじめ、自宅での自立した生活を希望する利用者を支援しています。

「在宅なら、その方らしさを保てる環境で、治療や日常生活をサポートできます。初めは拒絶される方もおられます、何度もお訪ねすることでその方自身や生活パターンを見極めた適切なケアが可能。医師や看護師をはじめとしたスタッフが連携し、生活面の悩みやトラブルなどにも臨機応変に対応しています」。

こうした支援は、精神疾患を抱えつづけ域に適応して暮らすことが決して不可能ではないという考えに基づいています。



おおいしクリニック
〒601-8439 京都府京都市
南区西九条開ケ町202-1
TEL:075(661)8117

おおいしクリニック 院長
大石 豊 先生
(京都府出身・いて座)

立命館大学理工学部卒業。奈良医大卒業。同大付属病院、丸太町病院、音羽病院、いわくら病院、京都博愛会病院、オレンジホスピタルに勤務するほか、高木俊介氏主宰のACT-Kに参加。2010年、京都市南区にて在宅支援診療所おおいしクリニックを開業。

職員からのメッセージ②



看護師
橋本 美咲

精神科看護に
関心があり、当院

に転職しました。
あたたかくて頼
りがいのある先輩

“よりそって医療、よりそってケア” 栄仁会スタッフ募集

方の指導を受けながら、のびのびと働ける和やかな雰囲気の職場で、教育体制も整っています。日々の看護では、患者さまの安心や理解を得られるような関わりが必要となり、コミュニケーションの難しさや重要性を改めて感じます。また、患者さまによつては、症状を伝えられないことや、内に秘めて表出されない場合もあるため、精神面だけでなく総合的な観察やアセスメントも重要なとなります。これら的能力の向上は、看護師としてだけではなく人間性の成長にもつながります。未熟な私ですが、カンファレンスや退院前訪問などを通し、他職種と連携して患者さまを支えた結果、患者さまが快方に向かわれることに喜びややりがいを感じています。

募集要項

職種 ①看護師 ②准看護師 ③看護補助者(無資格可)

勤務 ①② 8:30~17:00・16:45~翌8:45(病棟2交替制)

③ 8:30~17:00(早出・遅出・夜勤有/週5日)

待遇 ①② 年間休日113日(うるう年は114日)、有給休暇・特別休暇・各社保完備 ③各社保完備

①② 常勤者には、就職支度金として20万円支給!!

応募・問い合わせ 詳細はお気軽にお電話ください。

0774-31-1362 (担当/総務管理室 橋本)

院内保育所
完備!

法人事業所介護スタッフも
同時募集

(広報委員会・羽鳥恵)
早いもので、また新たな1年が始まりました。世の中は目まぐるしく変化していますが、私たちの周りには変わることのない毎日の生活があります。それは多くの人たちとの出会いと別れを繰り返しながら常に変わるものでもあると思います。今回の「べるぶ」は、病気を抱えながら地域で生活することを支える栄仁会の取り組みを特集しました。支援のあり方は変わつても、人が人を支えるその形は変わらないよう思えます。地域の中でその人の生活を支える、我々のその思いが皆様に届けば幸いです。

編集後記



2015年1月31日発行



発行: 医療法人 栄仁会 宇治おうばく病院

●ホームページ

<http://www.eijinkai.or.jp>

